



ほの国東三河口ケ応援団
団長 鈴木 恵子さん

豊橋観光コンベンション協会 事業推進部次長。ロケ応援団を立ち上げ、ロケ誘致に力を注いでいます。また、豊橋カレーうどんの仕掛人として、情報発信を担当されています。

「ロケ地に選ばれる理由は地域の力」

おもてなしの気持ちで

全国の200を超えるフィルムコミッション（ロケ誘致団体）が東京の制作会社に営業を重ねる中、私たちは一切の営業活動をしていません。しかし、豊橋は数々の有名作品のロケ地として選ばれており、実際にドラマ「リーダーズ」や「ルーズヴェルト・ゲーム」、映画「少女」や「新宿スワンII」など多くの映画・ドラマが豊橋で撮影されました。それは、応援団の3つのポリシー「不可能を可能にする」「Noと言わない」「か



ドラマ「ルーズヴェルト・ゲーム」の撮影風景

ゆい所に手が届く」に加え、豊橋市民の人柄、ロケに対するおもてなしの気持ちがあるからなのです。

本紙1月15日号では、前編として近年豊橋で撮影された映画・ドラマと3月に開催する「ええじゃないかとよはし映画祭」について紹介しました。今回は、後編として「映画のまち豊橋」のキーパーソンに豊橋と映画の関わりについて伺いました。

問い合わせ：シティプロモーション課 (☎ 51・2179)

市民が心から楽しむ撮影

撮りたいと思わせる地域力

豊橋の撮影では、エキストラから制作スタッフへの差し入れが控室の机の上で山になります。また、スタッフのために閉店後にも関わらず開放してくれたお店もありました。ドラマの乱闘シーンの撮影時には飲食店の窓ガラスを割る許可まで出しました。

こうした地域の協力に加え、ボランティアスタッフやエキストラからは「次のロケはいつ?」「ロケに参加すると元気がでる」といった声が聞かれ、市民が撮影を心から楽しんでいることがわかります。

ロケ地は観光地ではないため、どこでも同じような映像は撮れませんが、豊橋が選ばれるのは「ここで撮りたい」と制作チームに思わせる地域の「力」があるからです。市民球場に4千人のエキストラが集まったドラマ「ルーズヴェルト・ゲーム」の福澤克雄監督は「1千人をCGで4千人にするのは簡単だが、本物の人が出演してくれたことでドラマの質が上がった」と豊橋でのロケを評価してくれました。豊橋は地域と市民が楽しみながら一体となって、作品を撮影するまちなのです。

ロケを支えるボランティア

映画を制作する上で大事なボランティア。豊橋でのロケを支えるボランティアのみなさんにロケに対する思いを伺いました。

ボランティアスタッフ

「迅速、丁寧、無理と言わない！なんとかする！」をモットーにロケに臨んでいます。日本一のロケのまち豊橋を目指しましょう。



田辺 親さん

エキストラのみなさん



エキストラは生きがいです。(鈴木さん)
撮影風景も見られて、貴重な体験ができて楽しいです。(木村さん)
ロケに参加して、病気も吹っ飛びました。(岸本さん)

左から鈴木夕賀さん、木村由加里さん、岸本僚子さん

「豊橋の魅力をかきた 映画を撮影したい」

撮りたいものが集まるまち

プロデューサーから見た豊橋の魅力は、市電の風情、駅前の素敵なホテルなどの近代的な部分、少し離れると広がる田園風景など、撮りたいものが一つのまちに同居しているところです。

また、地域がロケに対してとても協力的です。例えば、のんほいパークの大観覧車をロケのために貸し切れたり、昼間に駅前で水着姿の若い女性の撮影ができました。こうした場所は、全国を探してもあまりありません。映画関係者の中でも「どこで撮影したの？」と話題になるほどです。



映画プロデューサー
森谷 雄さん

豊橋市出身。(株)アットムービー代表取締役・プロデューサー。主な作品にドラマ「みんな！エスパーだよ！」映画「しあわせのパン」など。映画「曇天に笑う」が来年公開予定。

ロケ地として聖地化できる
作品を豊橋で撮りたい

今後は、ロケに対して協力的な強みをいかして、ゾンビ映画とかを撮影してみたいです。駅前をゾンビだらけにしたり、デパートのエレベーターからゾンビが飛び出てきたりするなど、豊橋では他では撮れない映像を撮れると思います。その他にも甘酸っぱい青春映画とかもいいですね。スポーツに懸ける高校生などの実話を題材にして、豊橋に住む若い人たちが盛り上がり、市外の人たちがロケ地の聖地として豊橋を訪れるような映画も作りたいと考えています。



映画のまち 豊橋を目指して

「映画は世代を超えて 楽しめる文化の代表」

映画を楽しむ1日

平成14年、閉館したまちなかの映画館である旧スカラ座・旧豊橋西武東宝を会場に、「まちなかに市民が集い楽しみ繋がる空間を…」をコンセプトにした、「とよはしまちなかスロータウン映画祭」がスタートしました。

「映画を通じて買い物をしたり、食事をしたりして、まちなかで1日をゆったり過ごしてほしい」という思いで始めたもので、映画だけでなく音楽ライブや落語、ポスター展など、集う人たちの交流の場となる映画祭です。

上映する映画は社会・人生・夫



昨年のとよはしまちなかスロータウン映画祭のようす

婦・家族を考える映画、見終わって気持ちが良い・考えさせられるものを中心に、新作から旧作、邦画から洋画まで、さまざまな種類を選んで上映しています。

みなさんも、2月19日(日)まで開催している「とよはしまちなかスロータウン映画祭」(本紙12月1日号7ページ参照)で、ゆったりまちなかで映画を楽しんでみませんか。



とよはしまちなか
スロータウン映画祭実行委員会
会長 佐々木 順一郎さん

映画コレクション・しねとろ倶楽部主宰。映画館の楽しさを次世代へ残すため、映画祭の開催やポスター・パンフレットなどのコレクションの展示会を開催されています。